

お客さまこんにちは

# 山梨県立 リニア見学センター

〒402-0006 山梨県都留市小形山2381  
☎0554-45-8121

<https://www.linear-museum.pref.yamanashi.jp>



走行試験中の「L0系改良型試験車」

## まさに一瞬

まさに一瞬。トンネルから現れた白い車体は、風切音とともに駆け抜け、はるか向こうのトンネルに吸い込まれていきました。

構えたスマホやカメラを急ぎ確認する来館者。上がる歓声…。みんな笑顔浮かべています。

## 時速500kmを間近に

「どきどきリニア館」と「わくわくやまなし館」の両館から成る山梨県立リニア見学センター。全長42.8kmの山梨リニア実験線に隣接し、時速500kmの世界を間近



どきどきリニア館(上)、超電導リニア「MLX01-2」実機を展示(右)



ビデオ撮影なら3階へ。

「もう間もなく通過します」と副センター長の岡部さん。車両の現在地は館内のモニターで確認、見学センターに向かってくるときは館内放送が流れるので、見逃す心配はありません。とはいえ、走行試験が行われない日もあるため「走行試験日は当館のホームページを確認してください」と念を押します。

## 本物の展示、改良型も注目

来館者を迎えるのは本物のリニア。鉄道の世界最高速度、時速581km(2003年当時)を記録した実験車両です。展示、実験、映像と充実した体験型博物館であり、科学館としても魅力いっぱい。走行試験が見られない日も、訪ねる価値があります。

1階のテーマは「学ぶ」。実機や模型の展示、年表などを通じて、半世紀以上にわたるリニア開発の歴史をたどることができます。

2020年夏に走行を開始した「L0系改良型試験車」の先頭車が、模型展示されています。従来型の「L0系」よりも空気抵抗を13%抑え、視認性向上のためカメラや前照灯の位置が変わりました。従来型より丸みを帯びた顔立ちは、東海道新幹線の最新型に近づいた印象。

さらに、ガイドウェイから車内電



超電導体の特性を学ぶことができる超電導ラボ



力を賄う誘導集電方式を導入、客室の内装も改良されています。従来型、改良型、どちらの試験車両を見られるか、それは行ってのお楽しみ。

## 超電導ラボの実験に喝采

2階は「体験」がテーマです。リニアはなぜ浮かぶ、なぜ走る、という原理を5つの体験装置を動かして学べます。ミニリニアは磁気浮上・走行が体験できる乗り物。小さな子どもから大人まで楽しむことができます。

スタッフによる実験、特に超電導ラボのコースター実験は大変な



副センター長岡部 大輔さん



全長17mのリニアジオラマ(上)、ミニリニアで磁気浮上走行を体験(下左)、時速500kmの感覚を得られるシアター(下右)  
©Forward Stroke Inc.



人気です。強力な「ネオジム磁石」を敷き詰めたジェットコースターのようなコース。そこにマイナス196℃の液体窒素で冷却した「超電導バルク体」を置くと、超電導体の特性「ピン止め効果」で浮上。これを押すと、浮いたままコース上を疾走します。

浮上・推進力の原理はリニアとは違いますが、超電導体の特性を直に目にする体験。実験終了時は拍手かっさいです。

## リニア開通後の山梨を描く

3階は「見る」がテーマ。リニアの停車駅を中心に配した全長17mのジオラマは、リニア開通後の山梨県の未来を描いています。「山梨県駅」のホームに同時に停車するリニアなど、模型の走行が子どもたちを引きつけ、スクリーンに映る山梨の四季の移り変わりは、大人を魅了します。

リニアシアターは時速500kmの世

界を映像で。リニアは時速150kmに達すると浮上走行に入りますが、その瞬間に座席が…。ぜひ現地でも体感してください。

もう一つの建物「わくわくやまなし館」は、1階がリニア・鉄道グッズや山梨の銘菓、さらにリニア見学センターオリジナル商品が多数並ぶショップ。2階は山梨県の観光情報コーナー、そして3階は走行試験が見られる展望室になっています。

## 安全の確保へ全速力で

「どんな細かいことにも迅速に対応頂き、専門的知識をもって、しっかり設備を見て頂いております」と岡部さん。当協会担当検査員とのコミュニケーションは良好な様子で、ねぎらいの言葉をいただきました。

リニア見学センターはコロナ禍前、年間30万人前後を集めた人気スポット。再びの盛況は遠くないでしょう。鉄道も電気も安全が大前提。当協会は、同センターの来館者に安心して時速500kmの世界を楽しんでいただくため、お困りの時は全速力で駆け付ける覚悟です。